

# 図書館だより

令和2年10月



## ラストページまで駆け抜けて

第74回 読書週間 10月27日(日)～11月9日(土)



さわやかな風が吹き抜ける季節になりました。

あなたは朝読書の本を一学期から何冊読み終わることができましたか？

読書の秋、何かと忙しい時期ではありますが、朝のひととき、クラスの仲間と同じ空間で本のページをめくる時間を大切にしてほしいと思っています。

「読書週間」は1947年、まだ戦争の傷あとが残っている中で、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」ということで始まりました。

今年は新型コロナウィルスの影響で世界が大きく変わりました。自国の利益を最優先に考えることを公言するリーダーが現れたり、王政に反対する若者が立ち上がる国家ができたり、世界の勢力均衡も大きく変わろうとしています。そんな時だからこそ幅広い知識を得て、それぞれの立場の人の思いを想像することが必要ではないでしょうか。その力になる「読書」は「平和な文化国家」を作る力を持っていると信じてやみません。

《学校図書館補助員 森田さんおすすめの本》

### 「若い読者に贈る 美しい生物学講義

感動する生命のはなし」

更科 功 著

文系の私にとってこの本の話は驚きの連続でした。

まず、物理学、化学、生物学、地学、これらはもともと科学という大きな分野であったことを初めて知りました。(先生、ごめんなさい)

次に、科学では決して100%正しい結果は得られないということに驚きました。学生時代のテストでは正解か不正解かはっきりしていたけど…と独り言を言っていました。

第8章の植物の寿命の話では、今私が生きていることは一体誰の計らいかと生命の神秘に触れた気がしました。

若い堀江中学校の皆さん、ぜひ読んでみてください。

